

Comparative Asian Research Network
Monthly Lecture Series on Issues and Research in the Asian Region
Organized by the Department of Japanese Studies, CUHK

All are Welcome!!

日本語教育のための言語研究とは？

「目に見えない」言語構造の教え方を中心に

Speaker: Professor Wesley M. Jacobsen

Professor of the Practice of Japanese Language, Director of the Japanese Language Program, Harvard University

Date: 11 September 2015 (Friday)

Time: 14:00 – 16:00

Venue: Leung Kau Kui Building, Room 401

Language: Japanese

Abstract

すべての自然言語と同様に、日本語にも日本語なりの言語構造がある。こうした構造を内面化させて、意識しないでそれに頼って言語活動が行えるようにすることこそ、言語教育の目指すべき最終的な目標だが、学習過程において言語構造を顕在化させて導入すべきかどうかをめぐって、第二言語習得論、また言語教育の実践ではなかなか結論が出ないまま大いに議論されている。当発表では、目に見えないからこそ重要であると思われる三種類の言語構造を中心に、発表者自身の体験に基づいて、言語学、言語教育、第二言語習得論の三つの観点からこの根本問題に迫ることにする。当発表で取り上げる対象とするのは以下の3種類の構造：

- (i) 項構造（述語の表す事態に関わっている関与物からなる意味構造）
- (ii) 情報構造（談話の中で未知と既知の情報が相互作用することによって生じる情報のパターン）
- (iii) 直接構成要素による文の構造（文の構成要素がなす縦の構造）

こうした構造の理論の面を追求すると同時に、「は」と「が」、関係節、動詞の自他、使役形、受け身形など、学習者にとって悩みの種になりやすい具体的な文法形についても、言語理論から実際面の言語学習に対して、どのような貢献が期待できるかを紹介することにする。

No registration necessary.

Enquiries: Ann Lui Email: annlui@cuhk.edu.hk